

生産性指標

⑥労働分配率

$$\text{労働分配率(\%)} = \text{人件費(円)} \div \text{売上高総利益(円)} \times 100$$

労働分配率とは売上高総利益（①説明文参照）に対する人件費の割合を示す。人件費とは役員報酬、給与手当、賞与、販売員給与、賞与引当金、福利厚生費などが含まれる。この割合が高いほど人件費負担が大きいことを示す。この比率が高すぎれば営業利益（②説明文参照）を圧迫し、低すぎれば社員のモチベーションが下がるため管理には注意する必要がある。

売上高規模	集計有効企業数	平均	中央値	標準偏差
全体	253	47.60 %	49.34 %	11.25
30億円未満	42	51.42 %	54.95 %	12.38
30億円以上 100億円未満	63	51.69 %	52.02 %	7.29
100億円以上 300億円未満	64	49.29 %	50.48 %	11.13
300億円以上 1000億円未満	53	44.09 %	46.06 %	8.95
1000億円以上	31	36.61 %	38.91 %	11.05

(時系列比較)

売上高規模	2020年		2019年		2018年	
	集計有効企業数	平均	集計有効企業数	平均	集計有効企業数	平均
全体	253	47.60 %	261	47.89 %	357	44.86 %
30億円未満	42	51.42 %	48	53.86 %	62	47.87 %
30億円以上 100億円未満	63	51.69 %	64	50.51 %	91	49.23 %
100億円以上 300億円未満	64	49.29 %	68	49.52 %	91	45.97 %
300億円以上 1000億円未満	53	44.09 %	45	43.54 %	67	40.83 %
1000億円以上	31	36.61 %	36	37.64 %	46	35.85 %

管理会計

⑦損益分岐点比率

損益分岐点比率(%) =

$$[\text{固定費(円)} \div \{ 1 - (\text{変動費(円)} \div \text{売上高(円)}) \}] \div \text{売上高(円)} \times 100$$

損益分岐点（もしくは損益分岐点売上高）は、企業の損・益がゼロとなる売上高のことをいう。費用は売上高に応じて発生する変動費と売上高の大小に関係なく発生する固定費に分けられる。従って費用を変動費と固定費に分解し、固定費のすべてを回収し採算ベースに乗る点のことを損益分岐点という。俗に「収支とんとん」となる売上高のことである。その損益分岐点が売上高に対してどのくらいの位置にあるかを示したものを損益分岐点比率という。損益分岐点比率は低いほど良く、100%以上になると赤字経営であることを示している。この指標は採算性の検討や将来の利益計画に活用される。ここでは簡易的に固定費を販売管理及び一般管理費、変動費を売上原価として以下の計算を行っている。

損益分岐点比率(%) =

$$\text{販売管理及び一般管理(円)} \div (\text{総利益(円)} \div \text{売上高(円)}) \div \text{売上高(円)} \times 100$$

売上高規模	集計有効企業数	平均	中央値	標準偏差
全体	303	96.76 %	97.81 %	7.24
30億円未満	47	101.07 %	100.85 %	6.20
30億円以上 100億円未満	69	98.90 %	98.87 %	7.03
100億円以上 300億円未満	77	97.47 %	98.20 %	6.01
300億円以上 1000億円未満	66	93.99 %	94.97 %	6.33
1000億円以上	44	91.70 %	94.51 %	7.35

(時系列比較)

売上高規模	2020年		2019年		2018年	
	集計有効 企業数	平均	集計有効 企業数	平均	集計有効 企業数	平均
全体	303	96.76 %	315	95.91 %	445	94.51 %
30億円未満	47	101.07 %	50	100.22 %	66	96.91 %
30億円以上 100億円未満	69	98.90 %	71	97.63 %	108	96.22 %
100億円以上 300億円未満	77	97.47 %	82	96.49 %	113	95.19 %
300億円以上 1000億円未満	66	93.99 %	65	93.52 %	84	93.35 %
1000億円以上	44	91.70 %	47	91.00 %	74	90.15 %

※標準偏差について

個々のデータが、平均からどの程度ばらついているのかを表す指標。

標準偏差が0であると、バラツキが全くないことになり、全データが平均値と同じ値であることを示す。逆に平均値に対して、標準偏差の値が大きい場合には、平均から離れた値が多く存在することを示している。